

目的 女子学生の家庭において、季節料理と行事料理の摂取状況を調査し、家族構成、世帯主の職業、母親の年代との関連を調べた。

方法 1989年6月に本学学生278名を対象に、配票調査を行った。集計処理は、大阪大学大型計算機センター-S P S S X, レリース2.202を用いて行った。

結果 生活の変化に伴い外食産業の進出と、食生活の簡便化が進んでいるにもかかわらず、この調査では、季節料理、行事料理共よく食べられていて、しかも家庭での手作りが9割であった。

家族構成とのクロス分析の結果は、季節料理では野菜の煮物や漬物類、行事料理では正月料理や盆の料理が、同居家族に多く食べられていた。

世帯主の職業別で見ると、煮込料理及び鍋物などに、有意差が認められた。

母親の年代別で見ると、炊き込み御飯やそうめんなどに、有意差が認められた。